

実践事例

(郷土) 福岡小学校 3年

「伝えよう！僕らのふるさと福岡再発見の旅」

4月～2月(35時間)

1 ねらい

総合的な学習の時間が3年生から始まる。総時間数35時間である。これは、十分な学習時間とは言えない。そこで、社会科の学区の様子を調べる「わたしたちのまちみんなのまち」の実践と本校の総合的な学習の地域学習とを関連させて、本単元「伝えよう！僕らのふるさと福岡再発見の旅」という単元を設定した。子供たちに学校のまわりの様子を観察、調査させる活動を通して、地域を見直し、さらに調べてみたい追究意欲を喚起させ、地域の人・もの・ことを再度見直す活動を仕組み、それをすごろくやカルタという形にまとめる構想を描いた。遊び、調べ、見つめ直していく過程で、地域を見つめる目を養い、地域が抱えている諸問題に気づき、将来の地域像を見通す力を身に付けてほしいと考えた。

2 研究の計画

本校では、学習すべき総合の時間の計画が立てられている。3年生の学習計画をもとに、年度当初の学年会で、本年度の総合の時間の方向性を話し合い、以下のような単元計画を作成した。

1 学期：福岡学区を探検しよう。砂川で遊ぼう。

- (1) 学区探検を実施し、新しく発見した人・もの・ことを「探検カード」に言葉や絵で記録しよう。調べたことを「発見カード」にまとめよう。
- (2) 「発見カード」を「福岡学区巨大絵地図」に貼付し、情報を交流し合おう。
- (3) 「福岡ご自慢すごろく」を作って、みんなで遊ぼう。

2 学期：学区の人と交流してみよう。

- (1) 昔の福岡の町の様子を、グループ毎に調査しよう。
- (2) おじいちゃん、おばあちゃんに取材してみよう。
- (3) 「ふくおかからだレッスン2015」で発表してみよう
- (4) 「福岡こどもカルタ」を完成させよう。

3 学期：学区の人に知らせよう。

- (1) 「福岡こどもカルタ」で遊ぼう。
- (2) 学区市民ホームで完成記念パーティーを開き、みんなで遊ぼう。
- (3) 1年間の活動のふり返りとまとめをしよう。

総合の時間と各教科・領域(主に社会・国語・図工・学級・道徳)や行事などの学習内容とも関連を図りながら、学習時間を確保する工夫を試みた。

3 実践の概要

(1) 合科的な取り組み

①地名から学区の様子を知ろう(総合・社会科)



学区の特色ある地名の由来を発表し合う

自分の住んでいる町名を調べさせ、発表し合い、友達の家との位置関係や学校から見てどの方位や距離にあるのかを黒板上で確認し合った。水や神社に関する地名が多いことに気付くことができた。また、福岡という地名の背景に、昔は多くの人々が集まって、大変賑やかな町であったことを知ることができた。

② 学校の周りを探検しよう (総合・社会科)

見学場所は、後の「福岡すごろく」の中に取り入れたい場所は、教師が見学ルートに入れ取捨選択した。子供たちは、新しい発見を下の資料のようにたくさんカードに書き留めていた。さらに調べてみたい気持ちも喚起することができた。



宮司さんから、礼儀作法を学ぶ

③ 砂川を探検しよう (理科・環境教育)



雨水ポンプ場の排水口見学



砂川での水遊び

④ カルタをつくろう (国語科)

2学期の学区探検を終了した後、国語科「俳句に親しもう」の発展で、これまで取材して発見してきたことを俳句に詠ませ、「福岡こどもカルタ」づくりにつなげる学習を実施した。

(2) 協働的な取り組み

① 「福岡巨大絵地図」と「福岡ご自慢すごろく」づくりで (総合・図工科)

2回の探検と砂川遊びの後、発見したひと・もの・ことをカード化し、下の写真のような巨大絵地図にまとめさせた。



各クラスで分担して、完成を目指す



巨大絵地図に発見カードを置く



すごろくで友達と遊ぶ



しかけいっぱいすごろく

巨大絵地図で福岡学区の全体像を概観させてから、すごろく作りに取り組ませた。

② 「福岡子どもカルタ」づくりで (総合・国語科・学級の時間)



班の中で討議する



全体で討議する

現在、「福岡こどもカルタ」を作成中である。2月中旬の完成を目指している。

3 実践をふり返って

学習のまとめをすごろくやカルタという遊びの要素を入れることによって、子供の興味関心や意欲化を図ることができた。時間数の確保などに課題は残る。